

被爆70年

広島・長崎は、なんだっただのか？

2015年
10月17日(土)
日比谷公会堂

開 会 13:00 開 場 12:00

資料代 500円

障がい者・高校生以下無料

主催 被爆70年のつどい 実行委員会

—今を戦前にしないために

被爆70年

広島・長崎はなんだったのか？—今を戦前にしないために

2015年10月17日(土) 開会 13:00 開場 12:00 日比谷公会堂

資料代: 500円 障がい者・高校生以下無料

後援 広島市・長崎市

企画内容

○音楽劇「まほうのたね」

—F・パブロフ「茶色の朝」より

作者: 山谷典子 演出 辻輝猛



毎日の暮らしの中で感じるちょっとした違和感。「でも、私だけじゃないし…」「言ったところで、どうせ変わらないし…」と、やり過ぎてしまう。

こうした何事もなかったように振舞う私たちの態度こそが戦争へと続く道なのではないか…。

戦後七十年を迎えるこの国が、再び過ちを繰り返すことのないように祈りをこめ、国を越え、時代を越える強いメッセージを持つ「茶色の朝」を原案に物語を紡ぎました。親子で楽しめる音楽劇です。

○被爆者が語る70年

○リレートーク

未来に向けて—今を戦前にしないために

・杉山千佐子さん(全国空襲被害者連絡協議会・顧問)

・照屋仁士さん(日本青年団協議会会長 沖縄在住)

・村上正晃さん(広島平和公園ガイド)

・高校生平和ゼミナール

他

広島と長崎に原爆が投下されてから70年が経ちました。この節目の年に、「非核・非戦」という日本の姿勢を確固たるものにするために、広島・長崎の原爆被害と被爆者の70年を改めて振り返る必要があるのではないのでしょうか。

原子爆弾は21万人の命を奪うとともに、地獄を生き延びた生存者にも戦後いのち、くらし、こころに苦しみをおよぼし続けてきました。この体験に基づき、被爆者は一貫して核兵器の廃絶と原爆被害への国家補償を求めてきましたが、日本政府は無情にも被害を「受忍(ガマン)」することを強いてきました。この「受忍」政策は、一般空襲被害や中国残留孤児など、アジア・太平洋戦争で日本政府が生み出した戦争被害者に対しても向けられています。

そして今、政府は国の戦争犠牲「受忍」政策を、これからの戦争にも広げようとしています。このことは、70年前の戦争を体験した世代はもとより、体験していない世代、特に現在の若者にとっても見過ごすことはできません。「平和」で安心して暮らせる社会の実現やそれを根底から支える現憲法そのものが危ぶまれているからです。

「ふたたび被爆者をつくらないために」という願いとこれに基づいた被爆者の要求には、過去の戦争被害だけでなく、現在そして未来の問題も含まれています。被爆者の70年の歴史を振り返ることは、戦争を体験しているかしていないかを問わず、すべての人びとにとって重要なことなのです。私たちは、戦争被害者と戦争を体験していない世代の人々がお互いに集える場として、この集会を開催します。

よびかけ人

岩佐幹三(日本被団協代表委員) 小林節(慶応義塾大学名誉教授、弁護士) 早乙女勝元(作家、東京大空襲・戦災資料センター館長) 澤地久枝(作家) 瑞慶山茂(弁護士、沖縄・民間戦争被害者の会顧問弁護士) 高橋哲哉(東京大学大学院教授) 谷口稜暉(日本被団協代表委員) 坪井直(日本被団協代表委員) 直野章子(九州大学准教授) 西崎文子(東京大学大学院教授) 濱谷正晴(一橋大学名誉教授) 肥田舜太郎(日本被団協顧問、医師) 山田洋次(映画監督)

主催 被爆70年のつどい実行委員会

日本原水爆被害者団体協議会、原水爆禁止日本協議会、原水爆禁止日本国民会議、全国空襲被害者連絡協議会、日本生活協同組合連合会、日本青年団協議会、日本宗教者平和協議会、全国地域婦人団体連絡協議会、ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

お申込み・お問い合わせ

被爆70年のつどい実行委員会

〒105-0012

東京都港区芝大門1-3-5 ゲイブルビル9F 日本原水爆被害者団体協議会内

電話 03-3438-1897 FAX 03-3431-2113

Eメール hibaku70jikko@gmail.com



日比谷公会堂

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-3

Tel 03-3591-6388

東京メトロ丸ノ内線 霞ヶ関駅 B2出口より徒歩5分

東京メトロ日比谷線・千代田線 日比谷駅 A14出口より徒歩3分

都営三田線 内幸町駅 A7出口より徒歩2分

チラシデザイン: 大西 裕菜

このチラシは被爆者の思いが未来へ継承されるように、被爆アオギリをイメージして作りました。

被爆70年のつどい ニュース No. 1

2015. 8. 10 「被爆70年のつどい」実行委員会

〒105-0012 東京都港区芝大門 1-3-5 ゲイブルビル 9F 電話 03-3438-1897

FAX 03-3431-2113

Email hibaku70jikko@gmail.com

賛同者50名19団体に 広がる

「被爆70年のつどい」実行委員会の呼びかけに答えて、続々と賛同者が集まっています。

「日本国からは正当な補償と謝罪を、世界からは非核の良心を、若い世代からは不戦の決意を私たちの努力で勝ち取りたい」（小林節氏）、「被害者の補償もせず、また戦争を始めようとする安倍政権に強く抗議します」（鎌田慧氏）など、戦後70年を迎えて、熱いメッセージが沢山寄せられ、励まされています。（裏面参照）

メイン企画 大学生が

被爆者にインタビュー

メイン企画では、大学の研究者の協力も得ながら、映像や音楽も入れて70年の歴史と被爆者のあゆみを振り返ります。

つどい実行委員会では企画会議に参加した学習院大学二年生の堀池帆帆さんは「70年前と今の日本の雰囲気がよく似ていると言われるが、それはどういうことなのだろう」と疑問を抱き、被団協の吉田一人さんにインタビュー。「戦争は始まったから止められない。全ては『戦争だから』で我慢させられ、徐々に生活の全てが戦争になっていく」「戦争の犠牲を

受忍しろという政府に対し、被爆者は政府の戦争責任を追及し、補償を求め、核兵器の廃絶を掲げて地道に活動を続けてきた」というお話を聞く中で「記憶の継承とは、ただ話されたことを繰り返すのではない。一人一人が未来にどう責任を持つかということではないか」と気づいたといいます。

つどいに参加された人がこの思いを共有できるように、企画会議で内容を練り上げています。

リレートークに

多彩な顔ぶれ

長年空襲被害に対する国の補償を求める運動の先頭に立ってこられ、今年九月に百歳になる全国空襲被害者連絡協議会顧問の杉山千佐子さん、沖縄在住で日本青年団協議会会長の照屋仁士さん、等身大の言葉で日常

的に広島市の平和公園で平和ガイドを務める村上正晃さん、高校生平和ゼミナールで活動する高校生など、多彩な顔ぶれが集まりました。テーマは「未来に向けて」。戦争体験の継承に取り組む各地の活動が生き生きと語られます。

チケット・チラシが

出来ました

広島市立基町高校創造表現科OGの大西裕菜さんが、被爆アオギリをモチーフに素敵なデザインのチラシを作成してくれました。「被爆の記憶の継承」をテーマの一つとするつどいにピッタリのチラシです。

チケットも出来上がり、早速普及活動が始まっています。日比谷公会堂は2500席。ぜひお誘い合わせでご来場下さい。

チラシを配布していただける方、チケットを預かって下さる方は実行委員会までご連絡下さい。郵送でお届けします。

「賛同いただきました」

個人

会沢雄策（会沢内科クリニック）

秋間実（東京都立大学名誉教授）

朝倉正幸（イタイイタイ病弁護団団長）

鯨坂真（関西大学名誉教授）

安斎育郎（安斎科学・平和事務所所長）

石田良正（大輪院住職）

板井優（弁護士、ノーマア・ヒバクシャ熊本訴訟弁護団

長）

市原悦子（女優）

稲葉喜久子（作家）

井上正信（弁護士）

植村香柳（書家）

内山新吾（弁護士）

内山勉（舞台美術家）

宇都宮健児（弁護士、元日本弁護士連合会会長）

岡田仁（荒馬座）

小野寺利孝（弁護士、上野の森に「広島・長崎の火」

を永遠に灯す会理事長）

片桐直樹（映画監督）

金子ハルオ（東京都立大学名誉教授）

鎌田慧（ルポライター）

上條恒彦（歌手）

間間元（医師）

齋藤紀（医師）

佐々木猛也（弁護士・核兵器の廃絶をめざす日本

法律家協会）

佐野正純（社会福祉法人尾張健友福祉会理事長）

ジエームス三木（脚本家）

杉山茂雅（弁護士）

鈴木瑞穂（俳優）

高内俊一（立命館大学名誉教授）

高崎暢（弁護士）

高畑勲（アニメーション映画監督）

田沼祥子

丹野章（写真家）

仲築間卓蔵（元テレビプロデューサー、マスコミ九条

の会呼びかけ人）

橋本敦（弁護士）

橋本美智子（医師）

花井透（医師）

羽田澄子（記録映画作家）

原玲子

肘井博行（弁護士）

平井雅士（東京シアターカンパニー代表）

福地保馬（北海道大学名誉教授・北海道反核医師

の会会長）

藤岡惇（立命館大学特任教授経済学部）

舟橋喜恵（広島大学名誉教授）

牧野こずえ（俳優）

松原未知（日本俳優連組合員）

森井俊行（神戸大学名誉教授）

安原幸彦（弁護士）

横川功（演劇制作者）

吉田恒俊（弁護士）

吉永小百合（俳優）

団体

安保体制打破新劇人会議

（株）きかんし

株式会社こまつ座

劇団前進座

劇団民藝

子どもたちに、世界に！被爆の記録を贈る会

旬報法律事務所

全国商工団体連合会

全国生協労働組合連合会

全国大学生生活協組合連合会

日本国民救援会中央本部

日本中国友好協会

日本母親大会連絡会

日本反核法律家協会

日本平和委員会

人形劇団ブーク 職員組合

播磨灘を守る会

非核の政府を求める会

美術家平和会議

（50音順・敬称略 8月7日現在）

被爆70年のつどい ニュース No.2★

「被爆70年のつどい」実行委員会 〒105-0012 東京都港区芝大門 1-3-5 ゲイブルビル9F 電話 03-3438-1897

◇13:00～「まほうのたね」—F・パブロフ「茶色の朝」より—

作 山谷典子 演出 辻 輝猛

毎日の暮らしの中で感じる違和感。「でも何か言ってもどうせ変わらないし」と思っているうちに世の中はどんどんキナ臭くなっていく…? 「茶色の朝」を原案にした、親子で楽しめる音楽劇。

◇13:35～ メイン企画

「広島・長崎はなんだったのか?— 今を戦前にしないために」

『民主主義ってなんだ?』私には答えられない…」「私は被爆者の運動から民主主義を学んだのよ」

戦後生まれの若者が、被爆者と対話しながら、被爆の実相や被爆者の運動の歴史を、証言、写真、映像、音楽などを通じて知り、被爆者がまさに民主主義を体現する生き方をしてきたことを学び、自分なりの継承のあり方を考えていく。構成劇の中で次の方が証言されます。

◆「原爆」を背負い続ける被爆者の証言



岩佐幹三さん 日本原水爆被害者団体協議会代表委員

広島 1.2 kmで被爆 当時 16 歳 被爆当時のようすを語る

倒壊した家屋の下敷きとなって母が焼死。妹は第一県女一年生で、建物疎開作業中に被爆、行方不明のまま。



横山照子さん 一般財団法人長崎原爆被災者協議会理事

長崎 当時 4 歳 被爆者の戦後を語る

父は 1.2 kmで被爆し重傷、母と妹は 4 kmで被爆。妹はその後失明、戦後生まれの末妹も原爆症に。戦後親族を次々に癌で喪う。

◆ふたたび被爆者を作るな! 基本要求にこめられた思い



吉田一人さん 日本原水爆被害者団体協議会機関紙編集委員

長崎 3 kmで被爆 当時 13 歳 「原爆被害者の基本要求」にこめられた思いを語る

1980 年から 4 年をかけて、「再び被爆者をつくらないために」を合言葉に、全国から寄せられた意見を一つ残らず反映させて「基本要求」は作り上げられた。

◆被爆者の運動が日本と世界の世論を動かす



藤森俊希さん 日本原水爆被害者団体協議会事務局次長

広島 2.3 kmで被爆 当時 1 歳 世界の世論の変化を語る

NPT 再検討会議の NGO セッション、核兵器の非人道性に関する国際会議（ノルウェー、メキシコ、オーストリア）に参加、発言

◇15:15～ 合唱団この灯

◇15:30～ 多彩なリレートーク



杉山千佐子さん (100 歳)

全国空襲被害者連絡協議会顧問
名古屋空襲で左眼失明。民間空襲被害者のために長年活動。



村上正晃さん

広島平和公園ガイド。国内外の観光客に若者の視点からヒロシマの過去と現在を伝える。



照屋仁士さん

日本青年団協議会会長・沖縄在住
沖縄から、戦禍の記憶を受け継ぎ、「今を戦前にしない」思いを語る。



柿沢未途さん

空襲被害者等の補償問題について、立法措置による解決を考える議員連盟事務局長。

富田彩友美さん (広島市立基町高校で被爆証言の絵を描く)

阿部のぞみさん (全日本教職員組合 青年部事務局長)

根本雅也さん (被爆70年調査企画者)

瑞慶山茂さん (弁護士・沖縄・民間戦争被害者の会顧問弁護士)

高校生平和ゼミナール

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

◇16:20～ 会場からの声

◇16:40～ 閉会挨拶 実行委員長 田中熙巳

【被爆70年のつどいに寄せられた賛同メッセージの一部をご紹介します】★

(敬称略、順不同)

小林 節(慶応大学名誉教授、弁護士)被爆70年のつどいよびかけ人

日本国からは正当な補償と謝罪を、世界からは非核の良心を、若い世代からは不戦の決意を私たちの努力で勝ち取りたい。

瑞慶山 茂(弁護士、沖縄・民間戦争被害者の会顧問弁護士)被爆70年のつどいよびかけ人

全民間戦争被害者の救済を！ 国家補償制度の確立を！

濱谷 正晴(一橋大学名誉教授)被爆70年のつどいよびかけ人

〈原爆死者〉たちに思いを馳せよう！ かれらの〈死〉とそこにいたる〈生〉とを知ろう！ その証は私たちの手の届くところに、無数にある。

舟橋 喜恵(広島大学名誉教授)被爆70年のつどいよびかけ人

「被爆者ととともにあゆむ」これが日本の将来をきめるスローガンです。

有原 誠治(映画監督、被爆者の声をうけつぐ映画祭実行委員長)

被爆者の70年の歩みは、私たちの道標です。被爆者の声は、核時代を終わらせるための希望です。それを次世代に繋ぐために、微力ながら力を尽くしたいと思います。

宇都宮 健児(弁護士、元日本弁護士連合会会長)

今年は戦後70年、節目の年です。戦争関連法案が国会に提出され、審議されている現在、正に「戦前」にしないために歴史を振り返ることが極めて重要な課題になっていると思います。

小野寺 利孝(弁護士、上野の森に「広島・長崎の火」を永遠に灯す会理事長)

今日こそ「広島・長崎」の歴史認識が鋭く問われています。集会の問いかけを深め、認識を共有することこそ、今後の反核・平和のたたかいに必要とされる力ではないでしょうか。

鎌田 慧(ルポライター)

被害者の補償もせず、また戦争を始めようとする安倍政権に強く抗議します。

鈴木 瑞穂(俳優)

1945年8月6日広島での原爆炸裂を江田島から目撃した者として、今国会で問題になっている「戦争法案」は絶対に許せません。「戦争を知らず、歴史からも学ばず、未来への想像力にも欠けた」愚劣な政治家も許せません！

野口 聡一(宇宙飛行士)

世代を超えて、日本、そして世界中の皆さんが想いを一つにして「平和のために今できることは何だろうか」と考え、行動しましょう。皆さんの行動が、「人類愛」と「寛容」を基にした真の国際平和に繋がることを心からお祈りしております。

渡辺 えり(俳優)

戦争を起こすのも止めるのも人間。私たち一人一人がやめようと思えば、やめられるはず。正義のための戦争などはありません。

株式会社こまつ座

被爆70年、戦後70年。難しいことでなく、大切な人に何を残していきたいのか、考える一年にしたいです。

日本平和委員会

被爆70年を核兵器廃絶への転機の年に！ 戦後70年を憲法を守り活かす年に！

美術家平和会議

歴史を省みない政治に怒りを覚えます。今こそ広島・長崎に学び、戦争をしない国にしましょう。